

明治三十年二月一日、榮町六丁目二十一番地の木造二階建西洋造家屋を借入れ事務所を之に移轉し賀屋洋介氏を幹事長に、小野謙太郎氏を常置幹事とし事務に快堂せしめたり。時恰も日清戦争終了後の海運發展の時機に際會し、政府も進んで海運保護に努めたる時代なりしを以て自ら海員の覺醒を促がし其の合同を策するには最良の機会にして數月ならずして會員數、數百に達するの盛況を見たり。

最初の計畫は神戸を本部所在地とし、爾後會の發展に應じ全國須要の地に支部を開設せんとするものにして先づ東京品川眞浦田中産七氏の宅に東京支部を設け後之を横濱に移し、田中氏専ら其の事務に盡したるが都合に依り明治四十三年限り之を閉鎖したり。

次で明治二十九年十月國館にも支部を置きしが、事情ありて明治三十二年之れを閉鎖し、爾來支部を置かず事務所は神戸に於ける本部一箇所となせり。

斯の如くにして海員俱樂部は漸次發展し數年にして會員一千餘名に達するに至り又相當社會に存在を認めらるゝに至りしを以て明治三十四年資を募り神戸市下山手通八

丁目六十番地(現在本部所在地)、元兵庫縣立神戸病院跡なる三百坪の土地の墾下を受け之に壯麗なる洋式二階建大家屋を新築し、三十五年七月十三日之に移轉し茲に全く獨立の體格を呈ふるに至れり。此時に於ては賀屋幹事長及び小野幹事既に辭任し前後の數年を通じ直接本會事務に關與し、最も熱心に其の發展に盡瘁せられたるは横山愛吉、林治定、横田末次郎、檢井次郎の諸氏なりき。

明治四十年三月六日、會務發展と時勢の進歩に適應する爲め本會の組織を改めて社團法人とし、海員協會と改稱し、山田毅氏最初の専務幹事に就任し、消極的會員の利權擁護の外、對外的に活動を開始し、依つて漸次政府並に海事關係各方面よりも時事問題につき意見を徹せらるゝに至りたるが明治四十二年五月、神戸港修築第一期計畫の修正問題(註一参照)及び内海航行規則草案に關する件等は其の主要案件なりき。斯て本會の沿革を通觀すれば其の内容外觀年と共に整備し來りしと雖も其の經營は決して平易、順調に非ずして波瀾重疊眞に艱難を極めたる場合尠ならず、創立以來此種の團體の常として各種の困難内外に簇出し、殊に明治四十二年頃に至りては日露戦役